

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572110104		
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームたしろ ユニットたけのこ		
所在地	秋田県大館市岩瀬字上岩瀬上野35番地		
自己評価作成日	令和3年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年度の事業計画は①家庭的な雰囲気の中で、可能な限りその有する能力に応じ自立した生活を営み、利用者の声が反映されるよう創意工夫し認知症ケアの充実を図る。②広報誌「かわら版」の発行、家族・ボランティア交流、保育園児との交流を通し、地域・家族に開かれた事業所を目指す。③「運営推進委員会」の設置により、家族・地域・行政等の委員の要望・意見・情報提供等により、事業所の更なる良好・健全な運営を図る。④防災計画を基に、夜間体制の確保・消防避難訓練等を実施し、長慶荘本体と連携し利用者の安全確保に万全を尽くす。⑤病気等の早期発見、早期対応に努めて健康的な生活の継続を図る。また、感染予防(インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルス)等には十分留意し、施設内に持ち込まないように職員間で周知し、感染予防に努めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは豊かな自然に囲まれていると共に、日中は隣接する保育園の園庭で遊ぶ児童を玄関・居室等から眺めることができ、のどかでほほえましい雰囲気が楽しめる環境となっている。ホームの共用部分と居室空間は居心地よく整えられ、特に廊下やデイルームの共用部分の随所に配置されたソファや椅子が利用者の交流の場や憩いの場となるよう細かな配慮がされていた。利用者職員が互いに会話しながら常に笑顔が絶えず、家族のような雰囲気が印象的であるとともに、町内や地域の消防関係者、法人の関連施設等による協力体制が整えられており、地域に根差した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

【ユニットたけのこ】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲げて、業務前に目をやり意識している。また、朝の申し送り時、日頃から職員全員で周知して業務に就いている。	理念は事務所内に掲示しながら、職員会議で申し合わせを定期的実施している。常に支援内容が理念に即しているかを意識しながら、適切な支援に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域への行き来やボランティアの受け入れはないが、かわら版を届けたり、散歩したりしている。また、隣接する保育園児の遊んでいる姿や畑で芋掘りを等の様子を見学し楽しんでいる。	元々地域との往来やボランティア受入れ等積極的に取組んでいる状況であった。しかし新型コロナウイルスの影響により地域との交流行事がほとんどできない状況であったが、感染者が落ち着きを見せる中で、隣接する保育園児がハロウィンの仮装姿で園を訪れ交流する等、少しずつ再開出来るよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の開催、常会長さんや保育園へかわら版を届け、ホームの様子を伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取り組みを写真を入れて見て頂いたり、ヒヤリハット等の報告をして意見交換をしている。運営推進会議で出された意見をホームに持ち帰り実践している。職員間で共有する為、職員会議で報告をしている。(コロナ対策、面会、グループホームの状況等について)	コロナ禍でも近隣施設の交流スペースを使用しながら、継続して対面での会議を継続している。参加者も地域住民代表・行政・家族・施設関係者を含め多くの方が参加されている。詳細に作成された議事録からは、委員からの活発な意見があり、また運営にも反映されていることが確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	発行月にはかわら版を届けている。また、運営推進会議に出席して頂きホームの様子を伝えている。常日頃から連絡を入れ、相談を行う事で協力関係を築いている。	施設広報紙「かわら版」の発行時に大館市役所に直接届けるようにしている。担当者とも相談協力体制が取れており、随時市内の高齢者の状況や行政手続きにおける情報提供やアドバイスを受けられる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会に参加したり、3ヶ月に1回グループホームで身体拘束会議を行ったりと具体例をあげ理解を深めている。また、入居者様が落ち着いて生活出来るように支援している。玄関の施錠はせず、チャイムで誰でも自由に入出入り出来る状況。離床センサーを使用しているが、事故が起きない様に、かつ身体拘束をしないようにケアをしている。	ホームにおける身体拘束における指針を作成し、身体拘束廃止委員会の開催と職員研修を実施しながら取り組んでいる。職員による虐待防止チェックリストを実施し、その結果を踏まえより良い支援につながるよう工夫されている。	センサーマット等の使い方によっては身体拘束と捉えられる恐れのある機器を使用する際は、その目的をしっかりと検討し、その内容をケアプランやケース記録等に記録しながら支援を進めることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在宅グループ学習会で学ぶ機会がある。全職員に周知し、声を掛け合いながら虐待する事のないように務めている。また、言葉使いにも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在宅グループ学習会で学ぶ機会がある。制度への理解、利用者尊厳を守れるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書を十分に説明し、同意のもと入所して頂いている。入退所時や料金改正時には本人やご家族様へ説明して理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは茶話会や誕生会を行い、ご家族様とは面会時や電話連絡、運営推進会議等で意見・要望を聞く機会を設けている。また、意見を出しやすいような雰囲気作りにも努めている。	利用者の日々の状況は電話や手紙により報告している。ご家族からは刺身などの生ものを食べさせてあげたいなど生活上での要望があり、対応改善している。また、利用者本人からは、普段の会話から出た要望を随時記録すると共に、年度末にはアンケートを取り、意見・要望を吸い上げる取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には、施設長・施設長補佐も参加して意見交換をしている。年1回施設長との面談を行い、意見や提案を話す機会を設けている。	職員会議内に職員同士の意見交換する時間を設けることとし、会議には出来るだけ多くの職員が参加できるよう配慮している。また、上司との面談機会を増やすことを目的とし、管理者と面談を行う中間面談を設けた。管理者や主任が職員個々の思いを確認するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年個人目標を立て、職務遂行能力考課(自己評価)を行っている。その後、施設長との面談を行い職員が向上心を持って働ける環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や学習会に参加して、受講者は研修報告をまとめ、職員皆が向上出来るように務めている。資格取得に向けての補助・助成も含め推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームで施設長補佐・管理者出席でグループホーム管理者会議を行ったり、相談したり、電話でのやりとり等行い、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人やご家族様と相談をして、入所後も安心して生活出来るように、また自宅での環境を出来るだけ継続出来るようにしている。また、使い慣れた布団やタンス等を持ってきて頂いたり、入所前の情報をもとに不安を軽減する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご家族様の要望を丁寧に聞き、また今何に困っているのかを聞き相談し合っている。入所してからも要望等に対して継続して相談し合えるように努力している。ご家族様の状況を把握することで電話や面会時に気軽に相談出来るようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	だまっこ作り、おはぎ作り、ミズやタケノコの皮むき等を行ったり、季節にあった行事や食事を教えて頂きながら一緒に楽しく作ることで共同生活の関係を築いている。洗濯物たたみや食器洗い、食器拭き、掃除等出来る事はして頂いている。家庭的な雰囲気作り・環境作りも大切にしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時にはご家族様へ連絡し、通院したり、聞いたりして一緒に支えている。また、毎月の行事や出来事、ホームでの様子をお便りでご家族様へ伝えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していた病院、美容院等は継続している。今現在、コロナで禍で外出や面会が思うように出来ない為、手紙や電話で連絡出来るようにしている。	現状では訪問・面会はできない状況にあるが、理美容室は本人のなじみの店を利用することを継続している。また、本人より自宅を確認したいといった要望があれば都度対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席は気の合う者同士で座って頂いている。ラジオ体操、風船バレー、口の体操等には職員も一緒に入り行っている。利用者様同士が関わり楽しく、また孤独感なく生活できるように支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設(特別養護老人ホーム)へ移る事が多いので、状況変化時には連絡を取って、繋がりを大切にしている。長期入院の場合はご家族様より相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中で本人の思いに寄り添い、またご家族様からの思いも聞きながら、出来る限り希望に添えるように、実践に向けて話し合いをしている。	普段の会話やアンケートにより利用者の要望を汲み取っている。主に食事や外出についての意見が多く、出て来た要望については日誌やノートに記録し共有している。誕生日には事前に本人の要望を取り入れた食事メニューで祝っている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接時に生活様式や趣味・生活歴を聞いて、入所後も継続出来るように全職員で共有している。入所後は本人と会話することで、情報を得て希望に添えるように努力している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、食事、排泄等の状態をチェックし、本人の思いやリズムに合わせた生活が出来るように支援している。また、朝夕の申し送り職員同士で共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、職員同士で話し合い介護計画書を作成している。また、ご家族様にはケアプラン発行時に意見を伺ったりと協力して頂きながら行っている。	利用者からの聞き取り、また家族からは事前に文書でケアプランへの要望を確認している。聞き取りと利用者のケアチェック表を合わせた検討により作成した原案を職員会議で報告する。職員の要望を踏まえ、支援内容を更に修正検討して作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子を具体的に日誌入力し申し送りで伝達している。変化のある時には職員間で共有する為、話し合いの場を作っている。月末にはまとめとしてケース記録に入力し、介護計画の見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム隣の保育園や散歩等で地域住民と交流する事で暮らしが落ち着いて、楽しむ事が出来るように支援するように努めている。利用者様の意向や必要性に応じて関係機関と協力しながら支援している。			
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族様へ確認し、特にない方は協力医療機関をかかりつけ医として、定期受診や健康診断、状態変化の際にはすぐに対応出来るようにしている。	支援員による通院対応を行っており、希望により入居前のかかりつけ医院・薬局に継続して受診できる。その他協力医療機関からは、定期受診や健康診断、状態変化の際に対応できる体制を取っている。		
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長、施設長補佐、長慶荘の看護師、かかりつけ医の看護師に状態報告し、通院等の指示を仰いでいる。			
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院の医師や看護師、病院の相談室、ご家族様と情報交換や話し合いをし、退院後も普段の生活が安心して出来るように努めている。			
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化した場合は、ご家族様に状態を伝え、病院や法人内施設(特別養護老人ホーム等)の申し込みをして頂き、他施設へ繋げている。	看取りは行っていないため、入居時に口頭で説明している。利用者に医療的ケアが必要となった場合には、近隣にある系列の特別養護老人ホーム・ショートステイのバックアップを受けられるという強みがあり、加療が必要な期間のみショートステイサービスの利用や特養への施設移行など柔軟に対応している。	ホームでの支援内容と重度化した際の指針については、文書で定め、口頭での説明と共に利用者入居時に分かりやすく説明できる体制づくりに期待します。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	在宅学習会や緊急マニュアルに添って対応している。対応マニュアルを作成し、日頃から職員一人一人が意識している。急変時の行動、連絡手順を図表化し、配布、掲示してシミュレーション、または訓練をしている。			
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定での避難訓練を実施している。夜間想定時には、消防署員や地域住民の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。緊急連絡網には地域住民の方も入っている。緊急時の食料、飲料水等確保している。	緊急時には町内会や消防関係職員の協力を得られる体制づくりを行っており、実際の避難や通報訓練にも積極的に参加している。訓練終了後にはきりたんぼを食べながら地域交流会を開催するなどしてコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で 注意しながら、ひとりひとりを把握し 本人の主張・行動・希望を受け入れ、敬意をはらいその人らしい生活が出来るように、また言葉掛けに十分注意しながら支援している。	本人を傷つけない声掛けやプライバシー保護については、法人内で実施する研修会で考える機会を設けている。また、普段の業務内でも支援方法について気になる点については相互に注意し合える雰囲気づくりに取り組んでいる。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人に寄り添い、何でも気軽に話せるように配慮し、希望を引き出しながら自己決定出来るように努めている。意思疎通が困難な方には、表情を見て声掛けする等を行い、支援している。(食べる物、衣服、趣味活動等)			
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の中で、出来る限り一人一人に寄り添い、本人のペースに合わせて支援するように心掛けている。また、コミュニケーションを図り希望や要望を引き出しながら、遠慮のないように支援している。個別対応も重視している。			
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望で、化粧や着替えをしている。起床時、入浴時、外出時には本人希望の衣服を選んで頂いたり、定期的に理髪店に来て頂き散髪を行っている。季節に合わせて衣服の入れ替えもしている。			
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	きりたんぼ鍋やだまっこ鍋、また季節に応じた旬な野菜や山菜を提供し、季節感も楽しみながら一緒に作り、食事をしている。また、行事や誕生会には本人に食べたい物を聞き、献立メニューとして取り入れている。後片付け、食器洗い、食器拭きは進んで手伝って頂いている。	中庭では畑を利用した野菜作りを行い、収穫している。また差入れも頻繁にあり、野菜については皮むき等の下準備を利用者で行っている。また、当日の配膳や片付け、調理の補助についても当番を決め主体的に取り組んでいる。利用者の希望を取り入れたメニューを皆で作って食べる楽しみを共有していた。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・水分量をチェックし、食事量が少ない時には栄養補助食品や好みの物を食べて頂いている。食事状態を見て一人一人に合った量の提供、食事形態を変更しながら提供している。水分補給はこまめに提供している。むせやすい方にはトロミを使用し、事故の無いように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行う方、介助の方も毎食後歯磨き、うがいをおこなっている。就寝前には義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し、本人のペースに合わせながら、自尊心を傷つけないように配慮し、時間誘導でトイレで排泄出来るようにしている。また、排泄の失敗が少ない方には紙パンツから綿パンツに変更しトイレでの排泄を促している。排便間隔を見て、下剤を使用したりとスムーズな排泄を促している。	紙おむつに頼らない支援を心掛けており、本人の排泄パターンを確認し、支援を行っている。実際に紙パンツから綿パンツに変わることができた事例もあり、出来ることを維持する支援に取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、牛乳や豆乳等その人に合った飲料を提供している。排便を記録し、水分補給をこまめに、また歩行運動や体操を一緒に行い、出来るだけ自然排便が出来るように促している。便秘傾向の方には主治医と相談し、下剤を処方して頂き定期的に排便を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は週3回、時間・曜日を決めて入浴している。個々の体調に合わせて、無理のないように行っているが、入浴を好まない方には声掛けや対応の仕方を工夫し、その場面にあった対応をしている。	週3回の入浴を基本としており、その日の行事や本人の状況により入浴の順番を柔軟に変更しながら入浴してもらっている。仲の良い利用者同士と一緒に入浴することも可能であり入浴を楽しむことのできる支援を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、自室やホールソファで自由に休んで頂くようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方内容の説明書を全職員がいつでも見れるように、内服薬ファイルへ個々に綴じて活用し、薬の作用・副作用を確認出来るようにしている。状態変化した場合は、随時医療機関と連絡を取り、医師へ相談し、通院している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所する前の生活・趣味等を聞いて、入所後も続けられるようにして、楽しく生活ができるようにしている。(家事手伝い、裁縫、書道、畑仕事等)。外気浴、散歩、ドライブ等で気分転換も図っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に花見・新緑狩り・紅葉狩り等ドライブに出掛けている。また、近隣への散歩にも出掛けている。定期的に参加していた地域イベントやご家族様と一緒に自宅へ一時帰省も取り入れていましたが、コロナの関係で現在は中止しています。コロナが落ち着いたらイベント参加や一時帰省をしていきたい。	近所への散歩や、季節ごとのドライブ外出を行っている。散歩では近隣住民や保育園児との交流の場であり、できるだけ外に出られるよう支援している。コロナ禍による制限はあるが、状況を見ながら外出機会の拡大を図れるよう取り組んでいる。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金は、事務所預かりとしている。買い物代行する事が多いが、希望があればいつでも持ち出し可能で、自由に使えるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話の希望があれば随時対応している。ご家族様から手紙や贈り物が届いた時には、返信の手紙を出したり、電話でいつでも話せるようにしている。年2回、絵手紙を作成し、暑中見舞い・年賀状としてコメントを添えてご家族様へ出している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内掃除・消毒は毎日行い、清潔保持や感染症予防に努めている。また温度や湿度の調節もし快適に過ごせるようにしている。毎月掲示物を変えたり、季節の花を飾ったり、玄関やホール壁には季節感が感じられるようにディスプレイを作り工夫している。	清掃・消毒が実施され、温度・湿度も管理された快適な環境である。また、壁には利用者の作品などが掲示され華やかに彩られていた。また随所にソファや長椅子が置かれ団らんでできるスペースが設けられており、利用者が自室にこもることなく共有スペースに出てきたくなるような雰囲気作りがなされていた。デイルームからは利用者の笑い声が常に聞こえて来ていたことが印象的であった。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや廊下にテーブルとイスを置き、自由にくつろいで頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた布団や衣装ケース・タンス等を持参して頂き、自宅にいた時の環境を出来るだけ変えないようにして、入所しても安心して過ごして頂けるようにしている。ご家族様の写真や自分の好きな物を飾ったりと本人の好きな空間を作っている。	居室設備は、ベッドのみ備え付けであり、その他タンスや棚などは入居前のなじみのものを持ち込んでいる。居室スペースはゆったりとし、収納も広く取られていた。居室からは保育園の園庭や広々とした中庭を望むことができ、穏やかに過ごすことのできる居室となっていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス整理が出来るようにネームを付けたり、ホーム内を散歩したりと出来る事は自分でして頂いている。また、トイレ・居室の場所に名前や印を付けて混乱しないようにしている。看板の設置・手すりの設置・廊下に畳席やテーブル・イスを設置し休めるようにしている。		